



旅する公務員

第20弾

島根県海士町

「旅する公務員」の目的

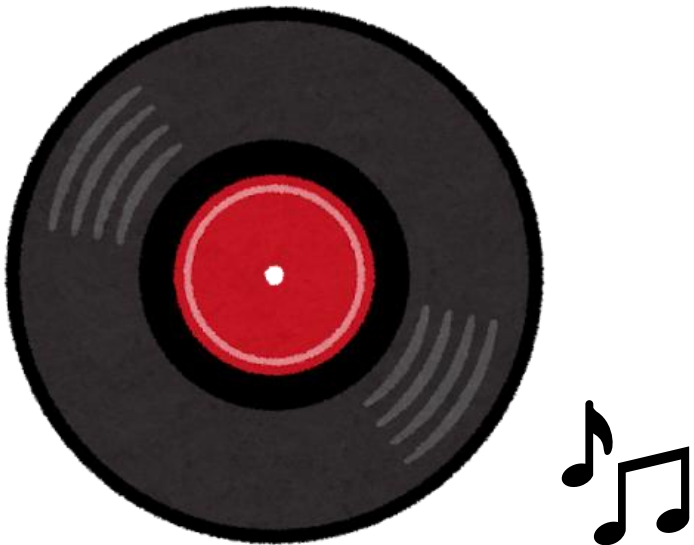
◆「A面」的目的

磐梯町役場の情報システムを活用したテレワーク環境を活かし、磐梯町と交流のある自治体に職員を派遣。派遣先自治体で自町の業務をテレワークで実践しながら、派遣先の業務や職場の雰囲気について磐梯町との共通点や相違点を実体験しながら学習する。



◆「B面」的目的

自治体間の交流を推進し
互いの先進事例を共有することにより
地域課題の解決を図る。



◆「ボーナス 트랙」的目的

先方自治体の職員の方ばかりではなく
関係者や団体の方々
なにより住民の方々と
昼夜分かたず楽しく交流し お友達になる。

「旅する公務員」 第20弾の概要

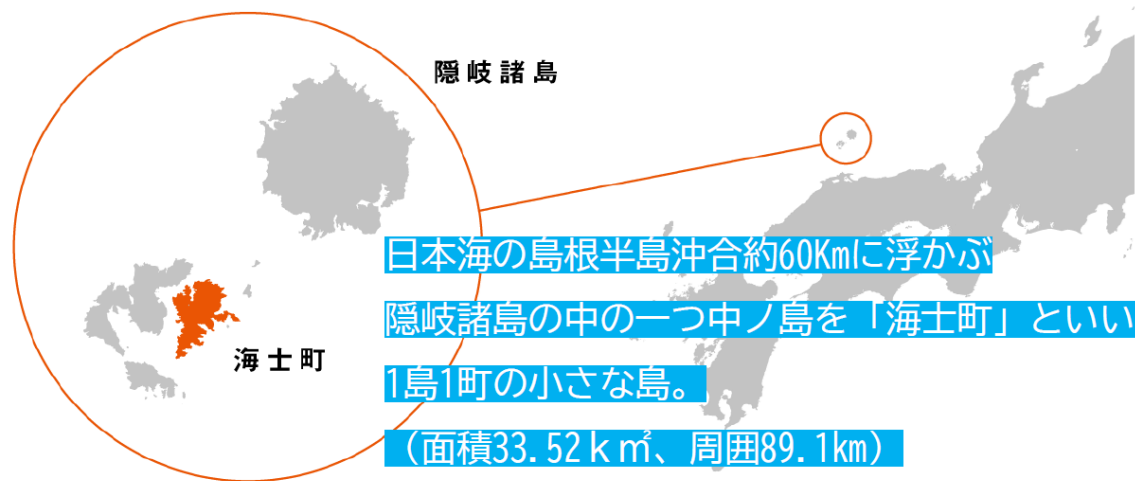
旅した期間 2025年11月12日（水）～2025年11月14日（金）

旅した職員 行政経営課 係長 五十嵐 卓
行政経営課 主査 坂本 通治

旅した場所 島根県 海士町

旅の概要

海のサムライと書いて、あまと読みます



総人口：	2, 3 1 1 人 (2025年8月末)
集 落：	14 地区 (最小約20人、最大約470人)
移 動：	島の中心 (役場) から最長15分 (車)
出 生：	12名 死亡：32名 (直近3年平均) 年20人の自然減
高齢者：	885名高齢化率：39.7%
学 校：	小学校2校 中学校1校 県立高校1校
産 業：	第1次163名 (14.3%) 第2次179名 (15.6%) 第3次803名 (70.1%)
医 療：	医科診療所、歯科診療所
福 祉：	高齢者居住施設30室 特別養護老人ホーム定員30床

旅のスケジュール

月日	AM	PM	宿泊
11/12 (水)	移動 (6:00) (JR-飛行機-フェリー)	海士町到着 (17:30) (役場担当者との挨拶、宿泊施設へ)	ISOYA
11/13 (木)	8:30 海士町役場 テレワーク 10:00 海士町取り組み紹介 (柏谷課長) 11:00 半官半Xの制度活用 (実践者 原係長)	13:00 中川副町長ご挨拶 13:30 Ento視察 14:00 TADAYOI視察 15:00 隠岐神社-天川-いわがき生産加工場- 塩工場-キンセン-CAS-隠岐島前高校 18:30 3町合同懇親会	中村旅館
11/14 (金)	移動 (8:00) (フェリー-飛行機-JR)	磐梯町到着 (20:00)	

旅する「A面」

◆旅先でのテレワークは問題なし

- ①情報システムのクラウド化により、OneDrive、Teams、Outlookも使え、職場内外との連絡調整もスムーズに行える。
- ②新幹線やフェリーなどの移動時間もポケットWi-Fiを借用し業務を行ったが、容量の問題などもあり満足に作業ができない場面もあった。
- ③実際にPC（個人情報含む）を持ち出しているのは事実であるため、セキュリティー面での不安は残る。そのため、クラウド型デスクトップにするなどの対応が図ればさらに良い。
- ④電話対応については、個人携帯しか所持していなかったため、公用スマホが検討されると良い。



庁舎ロビーに設置されているコワーキングスペースでの作業

旅する「B面」①

◆町の主な取り組み

(1) 大人の島留学

就労型お試し移住制度（3か月～1年）

2020年開始、2025年は180名が参加予定

就職や延長率も高く、移住定住より「滞在人口」増加を重視

若者に選ばれる島づくりの一環として、キャリア教育や地域課題解決型プロジェクトを提供

(2) 半官半X制度

公務員が地域課題解決に取り組むため、役場業務と民間活動を兼業

令和4年に条例化（半官半X推進条例）

「公務拡大型」モデルで、行政職員が地域ビジネスやプロジェクトに参画

役場を「住民総合サービス会社」と位置づけ、経営会議を実施

(3) 複業協同組合（AMU WORK）

法律に基づき国認定を受けた人材派遣会社

職員が複数の事業所で働く仕組み（閑散期・繁忙期に応じて就業先を調整）

2024年時点で職員20名、派遣先43社

地域内で多様な働き方を実現し、担い手不足を補う

旅する「B面」②

◆自立・挑戦・交流×継承・団結～みんなでしゃばる島づくり～若者に選ばれ続ける島へ～

【産業維持の限界】平成30年～令和6年

- ・島にしごとをつくることで若者を呼び込むことにチカラを入れた結果、一定の成果をあげてきたが、約15年経過したところで、第一線で活躍していた世代が引退
- ・商工業の経営者も高齢化が進んだことで、産業担い手不足、農林水産業後継者不足をはじめ、地域内経済循環率の低さにより、稼ぐことの出口戦略を強化する必要があった

→第1期地方創生総合戦略「チャレンジプラン」を踏襲した第2期「**海士町エンジン全開計画**」の遂行

①価値観の転換と多様な働き方の推進（担い手の確保）

- ・移住定住の概念を捨て滞在人口へ
- ・半官半X、複業協同組合の設立

→若者に選ばれ続ける島を目指すため、
大人の島留学や自ら働き方をデザインできる制度を設計し実行

②島の外からお金（外貨）を稼ぎ地域へ還元する仕組みづくり

- ・付加価値を高めた宿泊施設（Entôなど）の整備
- ・意志あるふるさと納税を強化するため、未来共創基金の設置

→稼いだ外貨を一次産業や文化・環境分野などへ再投資する



1Fフロアには町長室のみ！不在でした、、

旅する「B面」③

◆自立・挑戦・交流×継承・団結～みんなでしゃばる島づくり～若者に選ばれ続ける島へ～

【時代の変革による危機】 令和7年～

- ・日本の総人口が急速に減少する（1億2千万人→6千万人まで半減する予測がある）中で、定住人口だけで人口を維持していくことが困難な時代となっている。
- 第3期地方創生総合戦略『**地域経営人口プラン**』～みんなでしゃばる島づくり2.0～の実践

①未来に残したい島の風景を次世代に継承

- 「変わらないために変わりつづける」の精神で、50年前の過去と50年後の未来が共存するような島を目指す
- 脱炭素・省エネ技術（GX）やデジタル化（DX）などの新しい技術を積極的に取り込む

②自立した持続可能なまちづくりのモデルに切り替え

- 滞在人口・関係人口をまちづくりや地域経営（人材育成等）に積極的に巻き込む
- 住民が所属や年齢、性別、帰郷者・移住者等に関わらず混ざり合い、学び合う仕組みをつくる



2Fフロアに集約された行政機能

「ボーナストラック」

◆申し合わせていないのに埼玉県横瀬町のみなさんも旅してきました！
(3町合同懇親会の様子：中央)

～三町は、各自治体の強みを最大限に生かした相互連携により未来をつくる、新たな自治体運営に挑戦します～

福島県磐梯町（町長：佐藤淳一）と、埼玉県横瀬町（町長：富田能成）と、島根県海士町（町長：大江和彦）の三者は、各自治体の強みを最大限に生かした相互連携により未来をつくる新たな自治体運営に挑戦するために、「三町共創協定」を締結しました。

今回の協定により、各自治体の強みを生かし事業の広域展開や、人材交流を進め、一つの自治体だけではできなかった新たな自治体運営に挑戦していきます。

これまで横瀬町では官民連携の枠組みを構築し実績を重ね、海士町では先進的な関係人口施策を進め、磐梯町では自治体DXをいち早く推進してきました。しかし、それぞれの自治体において伸ばしきれない取り組みがあったことや、変革に必要な人材の確保が急務となっている共通課題があります。そこで三町が協定を結ぶことで新たな価値創出や、人材の獲得・育成等、自治体を超えて新たなチャレンジを進めていきます。

出典：磐梯町HP



「旅の総括」

旅の所感は、人口減少・財政難という全国の地方自治体が直面する課題に対し、海士町がどのように「官民共創」を軸に持続可能な地域モデルを構築してきたかを学ぶことができました。

1. 海士町の強み

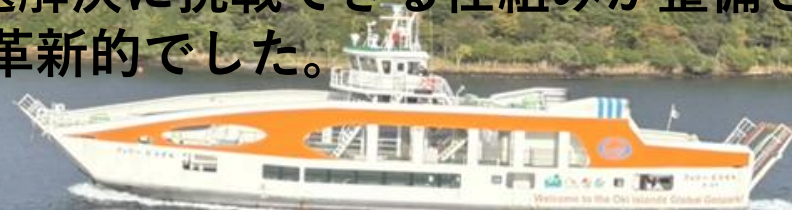
危機を契機に「ないものはない」という価値観を共有し、住民・行政・企業が一体となった改革を実行しているところや、何より「島全体で地域を持続可能なものにしていこう」という意識の高さに地域の力強さを感じました。

2. 特に印象的だった取り組み

大人の島留学については、当日も沢山の若者に出会いました。ショート滞りが殆どである一方、「また来たい」「次は移住を視野に」という若者に選ばれる島づくりが形成されていることに感銘を受けました。

半官半X制度については、条例化により公務員が地域課題解決に挑戦できる仕組みが整備されており、役場を「住民総合サービス会社」と位置づける発想は革新的でした。

磐梯町も、定住人口依存から脱却し、愛着・関係人口を増やす仕組みを加速させることにより、地域の持続可能性を高めることができると確信しました。





本土から我々を島まで運んでくれた高速船（レインボージェット）片道2時間

以上

「旅する公務員」第20弾
島根県海士町

報告を終わります。

